

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める ”3つの提案” 6つの取組
心豊かで たくましく生きる 子どもの育成 めざす学校像～落ち着きと温かみのある楽しい学校 めざす子ども像～よく考える子 助け合う子 元気な子 指導の重点「更なる“向陽プライド”～成功体験を味わわせ 自己肯定感を高める指導の徹底～」 (1)学ぶ意欲の育成と学力向上 (2)心の教育の充実 (3)体力向上と健康増進	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 C 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 C 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 A 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 A 】 年度末【 】
※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」	

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(6年) ○国語A、算数Aともに県平均と比べると正答率が低い。 ○国語B、算数Bともに県平均と比べると正答率はかなり低い。 ○無回答率については、県平均や昨年度までの本校の傾向と比べると、減ってきている(よくなっている)。 県(3～5年) ○どの学年も、国語・算数ともに県平均と比べると正答率は低い。 ○昨年度との同一集団の標準スコアを比較すると、どの学年とも昨年度より上がっている。 ○観点別にみると、全体として国語は「書く能力」、算数は「数学的な考え方」に多くの課題がある。 ・国語Aでは、『文の構成の工夫を問う』問題の正答率が、県平均よりかなり低い。 ・算数Aでは、『1あたりを求める時の数直線を選ぶ』問題の正答率が、県平均よりかなり低い。 ・理科では、『実験結果をもとに自分の考えを記述する』問題の正答率が、県平均よりかなり低い。	【学習状況調査の結果】 ○家庭での学習時間が1時間以上の割合が、県平均に比べて少ない。 ○学校の宿題をきちんとしている児童の割合は、県平均よりやや多い。 ○平日、家庭で読書を全くしない児童の割合が、県平均と比べて多い。つまり、家庭での読書習慣がない(少ない)児童が多くなる。 ○平日、テレビ等の視聴時間が2時間以上の児童の割合が、県平均より多い。 ○毎日ほぼ同じ時刻に寝ている・起きている児童の割合は、県平均に比べて多い。 ○あいさつ運動に定期的に取り組んでおり、学校内で「すすんで」「元気に」あいさつしようとする意識は高まってきている。これを、学校以外(家庭・地域)での意識の高まり・広がりへとつなげていく必要がある。 ○地域の行事等にすすんで参加している児童の割合は、県平均に比べて多い。 ○放課後や週末に、スポーツなどをして体を動かす活動をしている児童は、昨年度より僅かながら増えている。

成果	課題
○朝学習の時間を効率よく活用し、基礎学力の定着と既習事項の反復に取り組んだ。担任外の職員も積極的に指導に入り、全職員で全校児童の学力向上に取り組む姿勢を構築できた。 ○日々の授業改善とともに、授業の中で前学年までの復習、ふり返りの時間を確保し、つまずきの解消と苦手克服に取り組んだ。ここにも可能な限り担任外の職員も入り、学校としての取り組みとなっている。 ○校内の階段や廊下など、よく目に触れるところに算数の公式やことわざ、四字熟語、英単語や歴史人物などの重要語句を掲示し、日常の中での定着をねらった。「ジャマイカ」を使った四則計算チャレンジなどに、積極的に挑戦する児童の姿も見られつつある。 ○日々の授業の中での確かな学力定着を目指し、校内ルール、授業スタンダードを確立し、教職員の意思統一を図る。各教科の指導法やノート・板書の書き方など、そろえるべき事項を確認し、徹底を図った。	○国語・算数ともに、基礎的なことから定着が不十分な児童が多く、とりわけ自分の考えを記述することを苦手としている児童が多い。 ○授業(特に理科)における学ぶ意欲や、自らすすんで家庭学習に取り組む姿勢は、全体的に低い。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
家庭学習の定着・充実	3学期末	全学年・・・宿題提出100% 3年生以上・・・自主学習ノートの積極的な活用	宿題をすることの意義(わかる授業につながる)を繰り返し児童や保護者に伝える。教師は、よりやる気につながる評価(丸付け・言葉がけなど)を今以上に工夫する。お手本となる自主学習ノートを校内に掲示し、毎月表彰し奨励することで更なる意欲につなげる。	宿題100%ウィークを設定し、9割以上の学年で完全達成(全日100%)できた。自主学習ノートの奨励も定期的にできた。中学校ブロックの取り組みであるメディアコントロール週間を活用し、家庭での過ごし方を考える機会がとれた。	A			
日々の授業改善 校内研究の充実	3学期末	全学年(全教職員)・・・国語、算数の単元テスト平均80点以上の児童が8割以上 児童アンケートによる学ぶ意欲の向上	授業スタンダードに沿ったわかる・できる・楽しい授業づくりと学習規律の徹底を継続する。ノート指導や板書、発問(指示)や机間指導の仕方など効率的で統一したものにそろえる。お互いの授業を積極的に公開し、日々、研鑽に努める。	校内研修で発問や板書の工夫など実践交流をし、授業改善に努めた。単元テストやチェック問題の振り返りを行い、間違いを直し、次へとつながる指導を大切に続けていく。	B			
朝学習・学力向上タイムの充実	3学期末	全学年・・・基礎基本問題の正答率アップ 3年生以上・・・類似問題に取り組み正答率を上げる	同じ問題に繰り返し取り組んだり、まちがえた問題をできるまで考えたりする時間を保障する。どのように考え、どう表現したらよいかのポイントを的確に伝え、児童に「わかる・できる喜び」を体感させていく。	朝学習・学力向上タイムともに、1学期の取り組みを継続したが、量的にも質的にも充分とは言えない。限られた時間でポイントを絞った指導となるよう工夫していく。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○家庭学習(宿題)の100%提出を目指し、定期的・継続的に強化週間を設け、意識の高揚を図る。 ○『メディアコントロール週間』を実施し、テレビやゲーム、スマホでの動画等の視聴時間を減らそうと努力し、メディアとの上手なつきあい方を考える機会をもつ。 ○チャイムの合図を守り、規律ある中でけじめのある学習集団を育て、やるべきことをきちんとやりきることを徹底する。 ○授業の中に「話す」「伝え合う」場面を意図的に取り入れ、自分の考えをもち、広げ深める活動を大切にす。	○メディアコントロール週間に合わせて、校内の「宿題提出100%ウィーク」を実施し、メディアと上手につきあい、家庭学習の時間を確保することの意義を伝えていく。 ○学力検査の結果を個人懇談等で直接保護者に伝え、現状を把握し課題克服に向けた取り組みへの理解と協力を強くする。 ○チャレンジハッピーデーを活用し、親子でふれあう時間を生み出す工夫をお願いする。